

学会発表（所属については発表時のものを記載した。）

広島市で同時期に確認されたボツリヌス症
2 事例について

築地裕美

平成24年度地域保健総合推進事業「中国四国地域
ブロック地域専門家会議(微生物部門)」

2013. 1. 10 広島市

2011年、本市においてボツリヌス症2事例が同時期に発生した。喫食調査等が行われたが、2事例ともに喫食した食品との因果関係が不明で、感染源および感染経路の特定はできなかった。毒素試験および遺伝子検査等の結果から、2事例ともA型ボツリヌス菌であったが、毒素遺伝子型および*boNT/A*遺伝子クラスター型が違っており、異なる株であることから2事例に関連性はないと考えられた。

広島市におけるRSウイルスの
流行状況と遺伝子解析

田中寛子 藤井慶樹 山本美和子
京塚明美 石村勝之

第15回地域保健研究会(第1分科会)

2013. 2. 4 広島市

2008年11月から2012年10月までの間に感染症発生动向調査事業において採取された呼吸器疾患患者検体について、Real Time-PCRでRSウイルスを検出し、G遺伝子領域のダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定した。今回の調査により、2008年以降広島市において流行していたRSVは、サブグループAの遺伝子型NA1とサブグループBの遺伝子型BAがほとんどを占めていたことがわかった。これらは年を隔てても遺伝子配列に大きな差はなく、2008年から2012年までの間同系統のRSVが流行を続けていることが示唆された。また2012年に広島市では初めてサブグループAの遺伝子型ONも検出された。

2004年から2011年の広島市におけるヒトパレコ
ウイルス3型の分離状況と遺伝子解析

山本美和子 伊藤文明*¹ 野田 衛*²

第60回日本ウイルス学会学術集会

2012. 11. 13~15 大阪市

ヒトパレコウイルス3型(HPeV-3)は、呼吸器、消化器、神経系など種々の疾患を伴う患者から分離される。我が国では2006年、2008年および2011年の夏期に、乳児を中心に全国的に流行した。広島市においても全国と同様に流行が確認された。患者の多くは3ヵ月未満の乳児であり、主要症状は発熱であった。系統樹解析の結果、HPeV-3は一部の株を除き、検出年ごとに別のクラスターを形成したが、過去の流行株から次の流行株が分岐していた。流行株が患者間で維持され、変異を蓄積し、次の流行を起こしてきたと考えられた。

広島市域の土壤中ダイオキシン類調査結果

村野勢津子 森本章嗣 片岡秀雄

細末次郎

第39回環境保全・公害防止研究発表会

2012. 11. 21~22 熊本市

平成12年度から平成23年度までの広島市域の土壤中ダイオキシン類の調査結果は、230地点すべてで環境基準を達成していた。また、土壤に関しては、他媒体への影響等の調査を開始する目安となる調査指標値(250 pg-TEQ/g)が定められているが、この指標値を超える地点もなかった。

調査区分で比較した場合、一般環境調査(150地点)のTEQ平均値に比べて発生源周辺調査(80地点)のTEQ平均値の方が高かった。

調査地点を「小中学校」と「公園等」に分類して異性体総濃度を比較した結果、ダイオキシン等(PCDDs + PCDFs)、DL-PCBsともに「小中学校」に比べて「公園等」の濃度は高かった。

この濃度の差は、発生源からの寄与の大きさの違いだけでなく、「小中学校」と「公園等」の土質の違いがあることが影響している可能性も考えられる。

*1: 南区役所厚生部健康長寿課

*2: 国立医薬品食品衛生研究所 食品衛生管理部